

な
つ
か
し
き
人ひと
の
名な
を
き
く
火ひ
桶おけ
か
な

榎山梓月もみやましげつ

火桶

『冬鷲』（昭和二三）所収。「人来て文章去来なんど
のこといひいでたりければ」と前書。この前書がな
ければ、まるで古い友人のことが話題にのぼって
るようではないか。草間時彦は「師系として古俳諧
に学んだと言うが、学ぶというより、古俳諧に遊ぶ
という感が強い」と評している。丈草、去来は梓月
にとって古い遊び友達であるといってもいい。

梓月は其角堂機一門であった。【火桶・冬】

澤 12月号目次

澤通信句会のお知らせ……………4

小澤 實 露の墓 十五句……………8

高橋睦郎 季語練習帖 第一五六回……………10

潺湲集 小澤 實選……………12

祖母 余村光世 秋蚕 大野善雄

某 弓緒 出港 周藤迪之相

新盆 村上佳乃 降灰予報 中山雅弘

零余子 鶴見澄子 断崖 嶋田恵一

ざりざり 川上弘美 薪束 水田晴子

コロナの子 赤岩 覺 半世紀 結城あき

藜杖 小西保男 鹿 新澤 岳

七十余年 長谷川照子 夏合宿 松本孝子

一区画 栗生

澤俳句鑑賞 271

山崎祐子……………18

森下秋露……………20

窓

俳書を読む

星野恒彦『月日星』／奥坂まや『うつろふ』／水上孤城
『白韻抄』／永田満徳『肥後の城』／増田まさみ『止まり

木』 木内縉太……………22

詩文学芸書を読む

荒井裕樹『凜として灯る』 根岸哲也……………24

総合誌俳句鑑賞

「俳句」「俳壇」各十月号 今朝……………26

俳句結社誌を読む

「運河」令和四年五月号 梶等太郎……………28

通信句会の秀句 蔵田かをり……………30

潺湲集巻頭作家エッセイ 森永一正……………32

澤集巻頭作家インタビュー 大堀 柔……………33

俳句を豊かにするもの

五十代半ばにして振り出しに戻る 相澤美穂……………34

今日の私 深井十日……………35

同人代表句 加藤鉞物／近藤信男……………36

同人一句鑑賞 鍋山紀子／鈴木桃子……………37

澤衍……………38

澤四十句 小澤 實選……………40

選後独言 晴と褻のくぎり 小澤 實……………42

澤集 小澤 實選……………44

新村秀人／吉川千早／奥井健太／深井十日／清水ましろ／
吉成沢子／青木弓子／比嘉廿日／及川 澄／山下希記／河

辺柚里／村越 敦／中村敏彦

新入会員……………76

正誤表／

「俳句を豊かにするもの」原稿募集のお知らせ……………77

消息……………78

定例句会のご案内／11月号発送報告……………80

澤俳句叢書一覽……………81

雑誌「澤」購読のご案内／購読料更新のお知らせ／

澤基金募集のお願い……………82

澤基金応募者芳名／投句のご案内……………83

澤句会・カルチャー一覽……………84

広告……………85

後記……………90

デザイン||玉井一平

澤
令和4年12月1日発行
澤 俳句会
頒価 1,200円

表紙／小澤
實著『秀句三五〇選友』より